

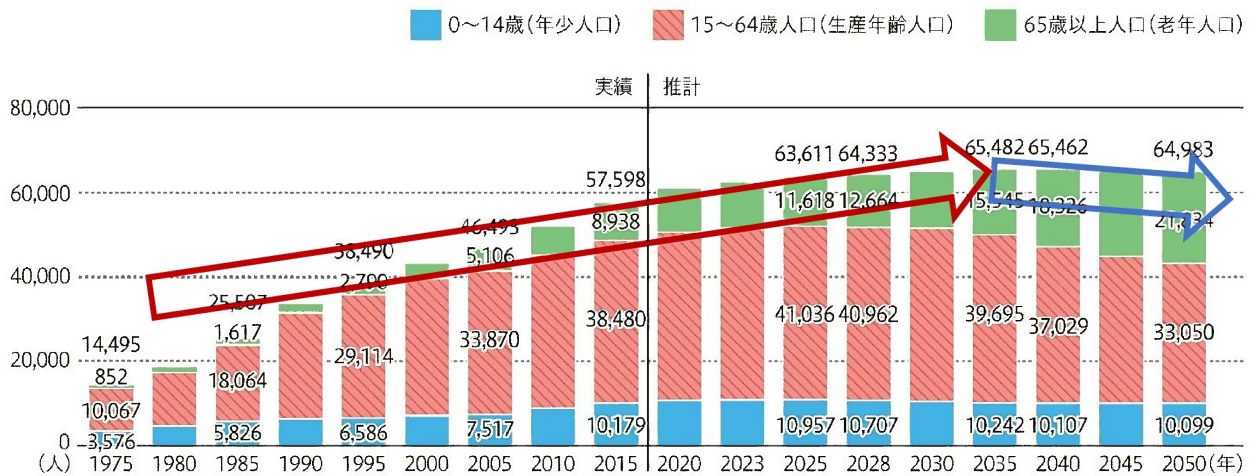
2. 都市構造上の課題

2-1 対応が求められる将来の情勢変化

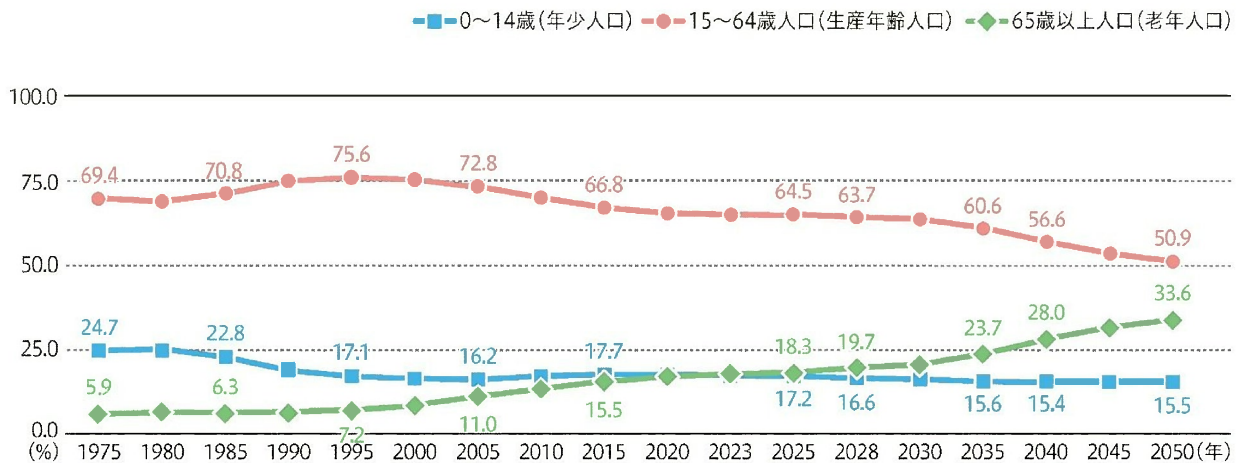
都市構造上の課題を整理するにあたり、本市において特に対応が求められる将来の情勢変化を以下に整理します。

将来人口 将来的な人口減少への転換

本市における将来人口は、当面増加するものの、2035（令和 17）年をピークに緩やかな減少に転じることが予測されています。このような「将来の人口を見据えた持続可能な都市構造の構築」が求められます。



図：将来人口の見通し



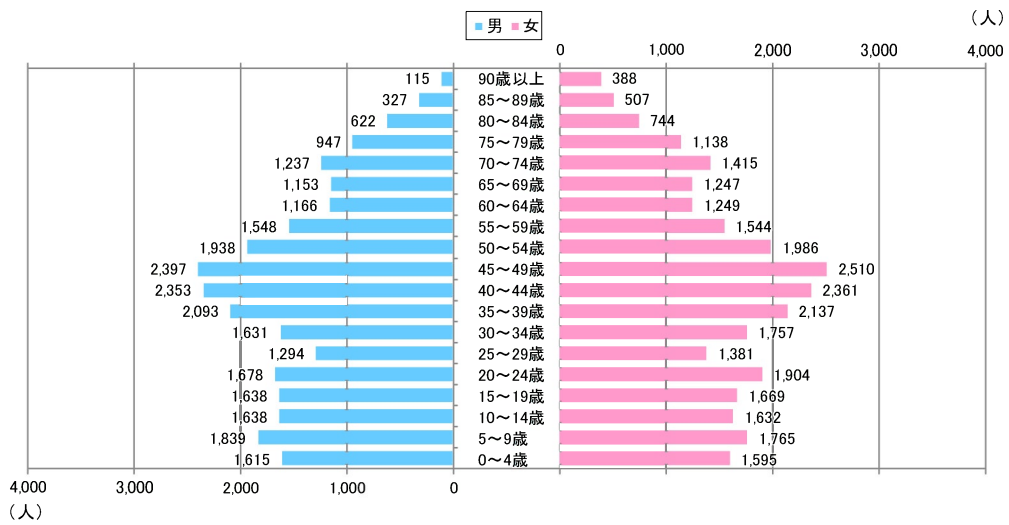
図：将来人口の見通し（国勢調査及び長久手市将来人口推計結果）

※年齢不詳分を各年齢層に按分
 ※なお、各年齢階級別の値を小数点以下で四捨五入しているため、合計値と必ずしも一致しない
 ※グラフは、長久手市将来人口推計結果より作成（「長久手市将来人口推計報告書（2017（平成 29）年 3 月）」において社人研の推計より正確な将来人口推計が実施されているため）
 ※長久手市将来人口推計では本市の実情に鑑みて、推計のために必要な「子ども女性比」と「純移動率」の仮定値を以下のとおり設定している
 子ども女性比：本市の実績（2015（平成 27）年）をもとに、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口-2013（平成 25）年 3 月推計-」の子ども女性比を補正した値
 純移動率：2015（平成 27）年及び 2010（平成 22）年の国勢調査の実績をもとに算出した純移動数から、大規模開発（2010（平成 22）年～2014（平成 26）年）による人口増加分を除外した値（今後予定されている開発による人口増加分は別途推計に加算）

（資料：ながくて未来図（第 6 次長久手市総合計画））

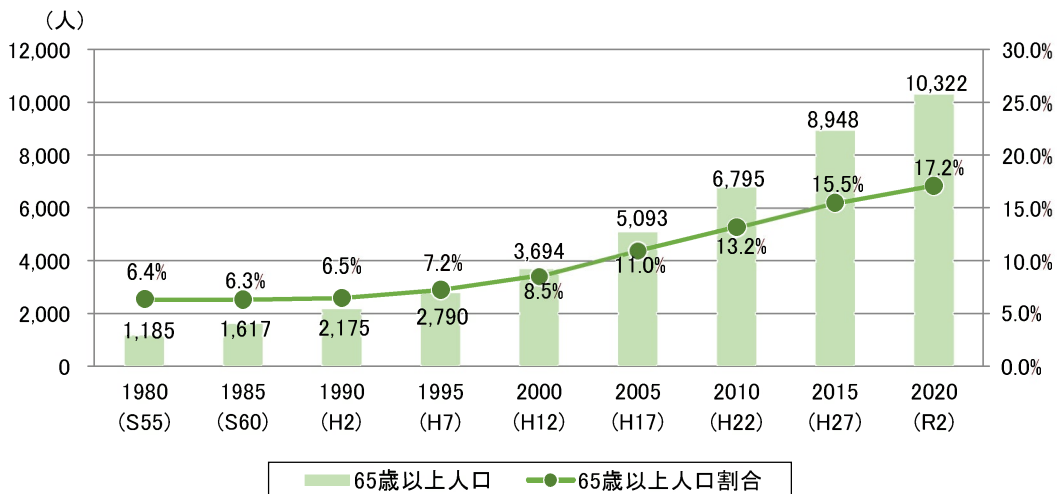
高齢化の進行

本市における2020（令和2）年の5歳階級別人口をみると、40歳代の人口が多く、特に今後20年間で65歳以上の高齢者になる人口（45～49歳の人口）が最も多くなっています。このため、現在は日本一平均年齢が若い本市においても、将来的には高齢者数が増加していくため、「高齢者にとっても暮らしやすい市街地の形成」が求められます。



図：5歳階級別人口（2020（令和2）年）

（資料：2020（令和2）年国勢調査）



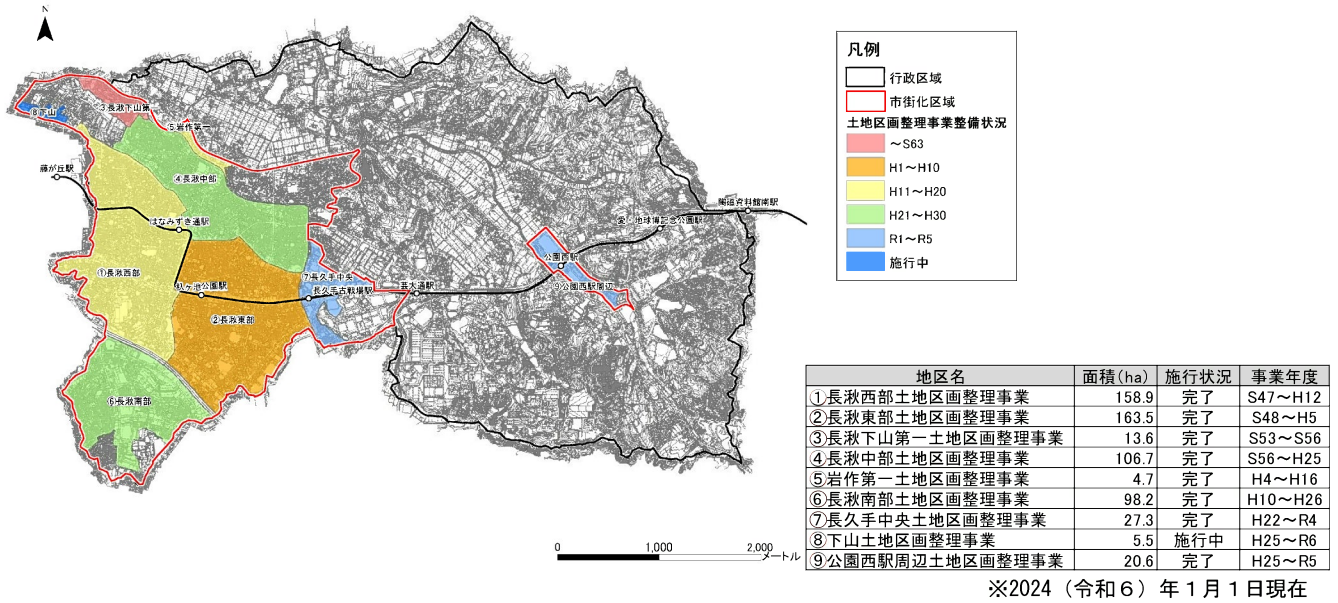
図：65歳以上人口の推移

※年齢不詳を除く（2015（H27）、2020（R2）は不詳補完値を表示）

（資料：国勢調査）

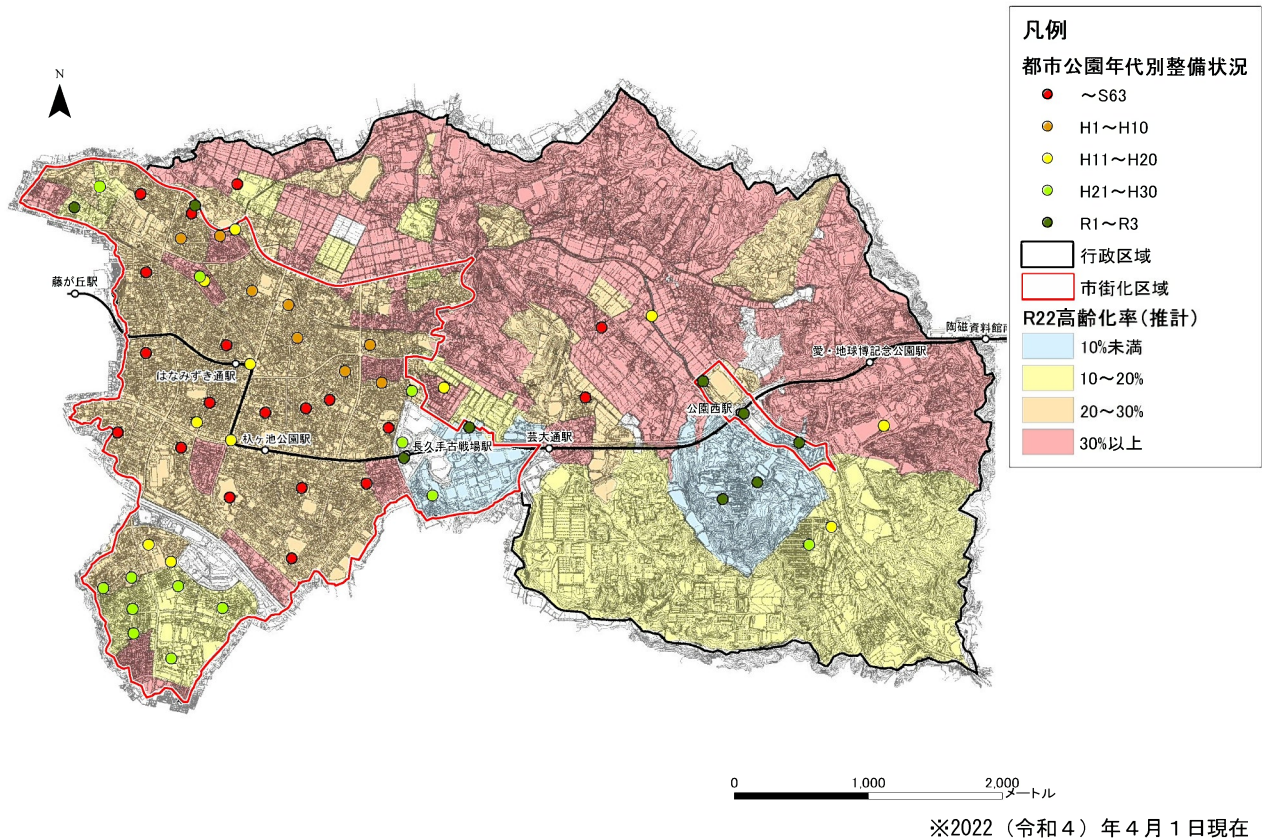
施設の老朽化

本市の市街化区域は、約8割が土地区画整理事業により整備された市街地であり、こうした地区の道路、公園、下水道等の都市施設は、今後、土地区画整理事業の地区ごとに老朽化が進むこととなります。このため、「高齢化が進む人口動向等も踏まえつつ、適切な維持管理やリニューアル等の都市施設の老朽化への対応」が求められます。



図：土地区画整理事業の状況

（資料：2021（令和3）年度ながくての統計、2016（平成28）年度都市計画基礎調査）



図：将来高齢化率（2040（令和22）年）及び都市公園の整備年代別分布状況

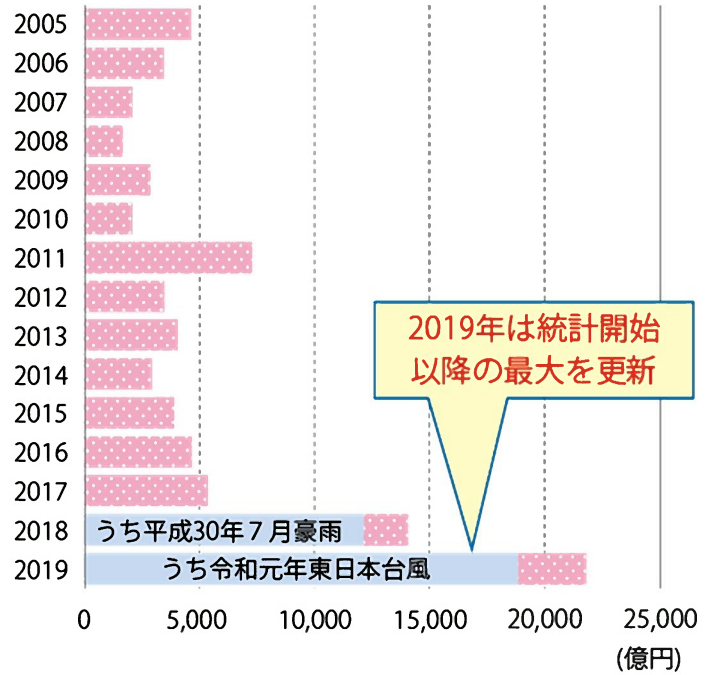
（資料：長久手市資料、国勢調査（統計GISデータ））

災害

激甚化・頻発化する災害

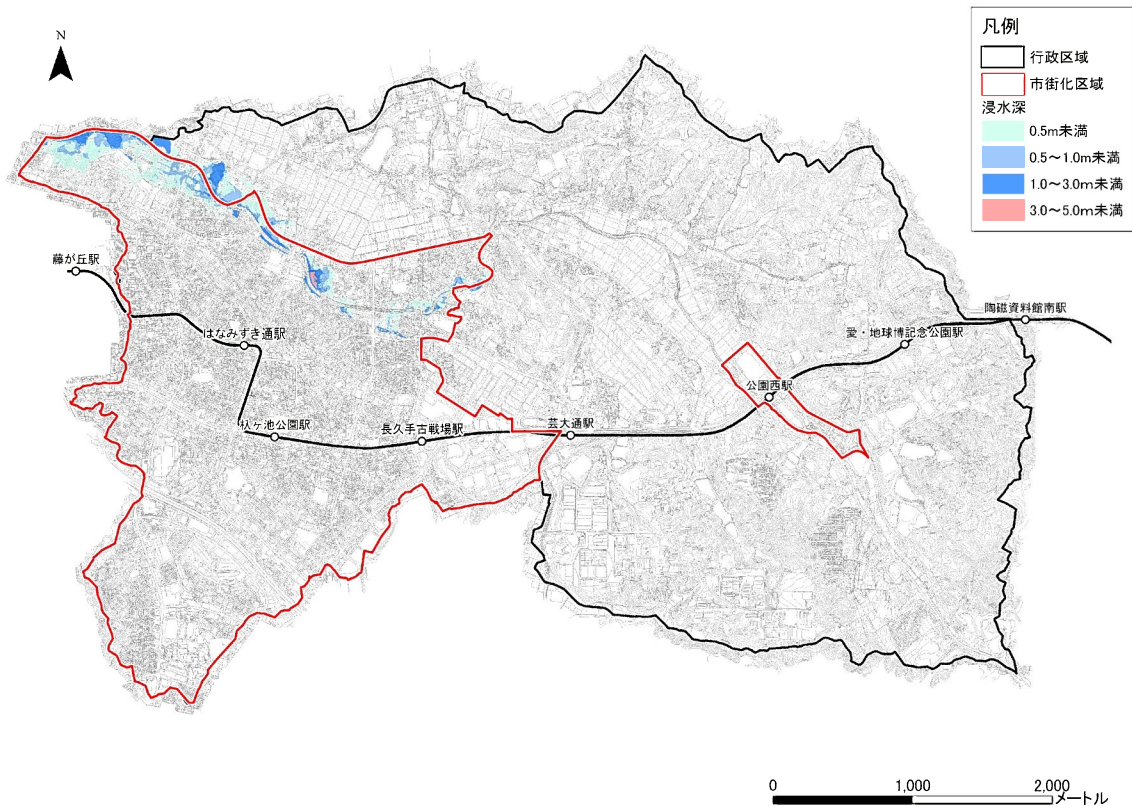
近年、豪雨災害が激甚化・頻発化し、「平成30年7月豪雨」、「令和元年東日本台風」や「令和2年7月豪雨」をはじめ、毎年のように豪雨災害による被害が生じています。今後、地球温暖化の傾向が続いた場合、気象災害の更なる激甚化・頻発化が予測されます。（2022（令和4）年版国土交通白書「序章気候変動に伴う災害の激甚化・頻発化」から抜粋）

今後、「気象災害の更なる激甚化・頻発化が予測されている中で、対応を検討していくこと」が求められます。



図：津波以外の水害被害額の推移

(資料：2021（令和3）年度版国土交通白書)



※浸水予想図：水防法で指定された河川（洪水予報河川、水位周知河川）において公表されている「洪水浸水想定区域図」のほか、水防法の指定区間外（上流部や支川）についても浸水リスク情報として愛知県が公表しているもの

図：庄内川水系香流川流域浸水予想図（想定最大規模）

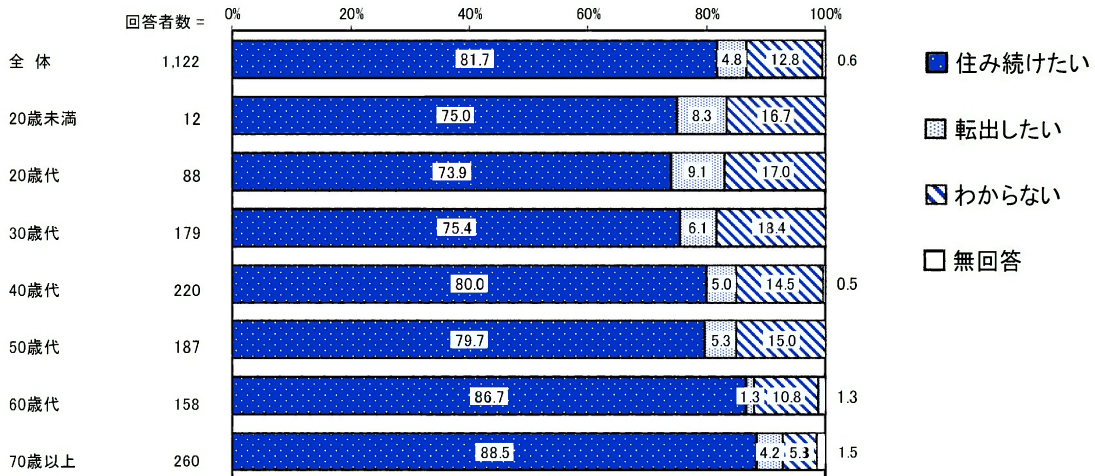
(資料：愛知県資料)

2-2 今後も伸ばしていくべき“長久手らしさ（本市の特長）”

都市構造上の課題を整理するにあたり、今後も伸ばしていくべき“長久手らしさ（本市の特長）”を以下に整理します。

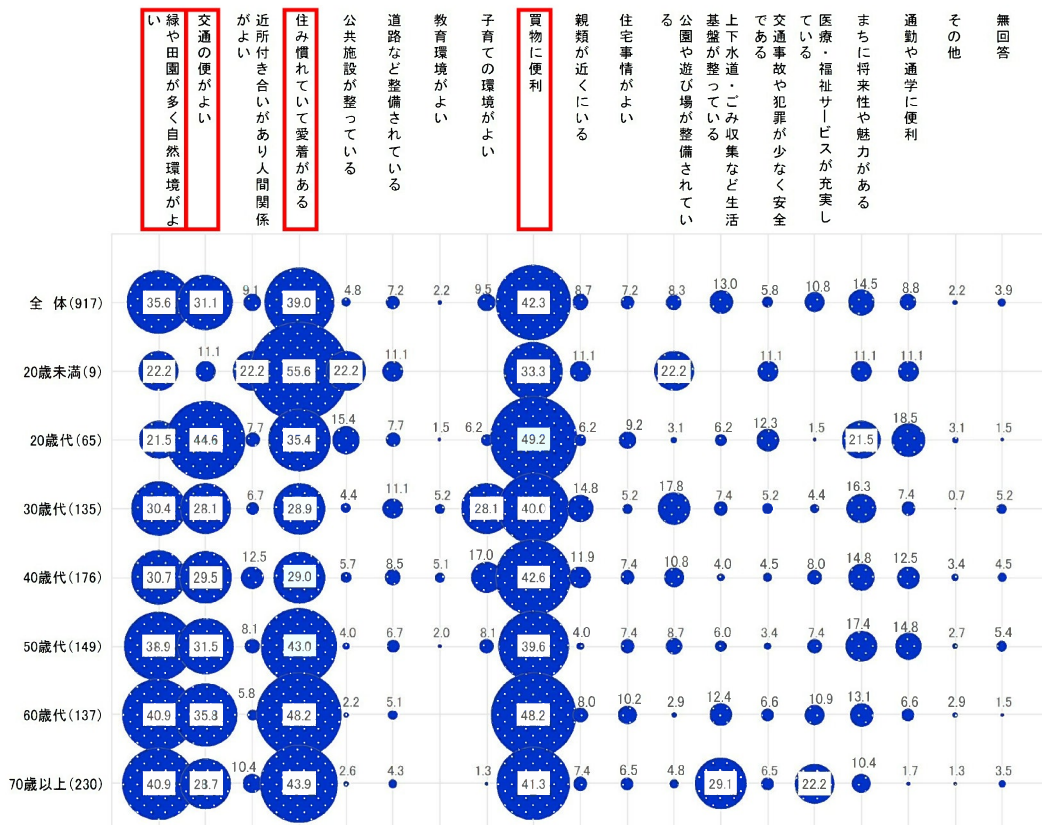
定住意向 住みやすく住み続けたいまち

2022（令和4）年度市民意識調査結果をみると、全体の8割以上が今後も「住み続けたい」と回答しており、その主な理由として、「愛着があること」、「自然環境がよいこと」、「交通、買物が便利なこと」などがあげられています。こうした市民ニーズを踏まえ、将来的に人口減少が予測される中であっても「選ばれ続ける長久手」であることが求められます。



図：定住意向

（資料：2022（令和4）年度長久手市市民意識調査）



図：住み続けたい理由

（資料：2022（令和4）年度長久手市市民意識調査）

若い世代

日本一平均年齢が若いまち

本市は2020（令和2）年国勢調査によると平均年齢が40.2歳と日本一平均年齢が若く、子育て世代の人口が多いことが特徴となっています。概ね20年後の2040（令和22）年の5歳階級別人口では、現在の子どもが成人することにより、進学や就職のタイミングを迎える20歳代前半の人口が突出して多くなります。そのため、「現在の子どもが大人になっても、引き続き本市で住み続けたいと思ってもらえるまちづくり」が求められます。さらに、30～40歳代の人口が概ね20年後において少なくなると予想されており、「本市に住んでみたい又は子育てがしたいと思ってもらえるまちづくり」も必要です。

また、本市は4つの大学（愛知県立芸術大学、愛知医科大学、愛知淑徳大学、愛知県立大学）及び2つの高校（長久手高等学校、栄徳高等学校）が立地しており、「学生が多いこと」も特徴であり、こうした教育機関と連携したまちづくりを進めることができる環境を有しています。

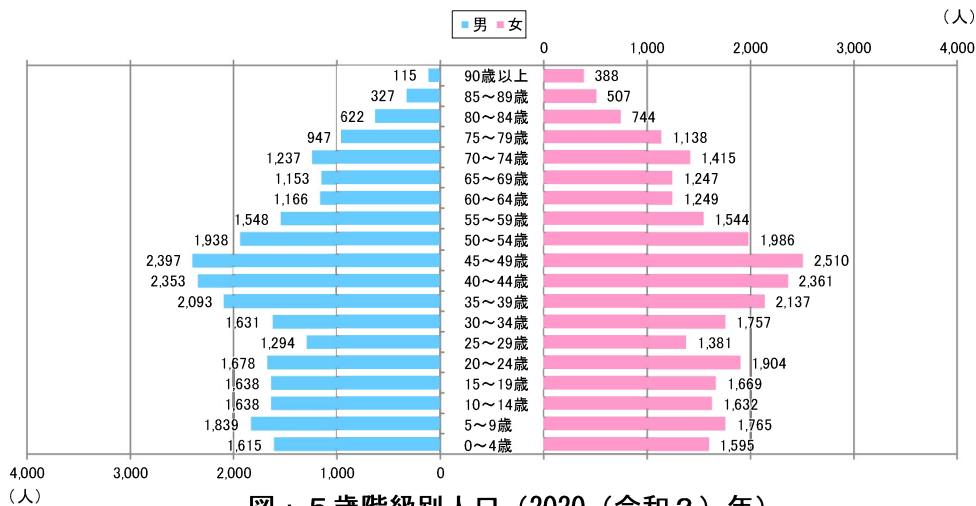
全国市町村の平均年齢

順位	平均年齢	全国市町村
1位	40.15	長久手市(愛知県)
2位	40.19	新宮町(福岡県)
3位	40.63	南風原町(沖縄県)
4位	40.77	粕屋町(福岡県)
5位	40.85	中城村(沖縄県)

愛知県市町村の平均年齢

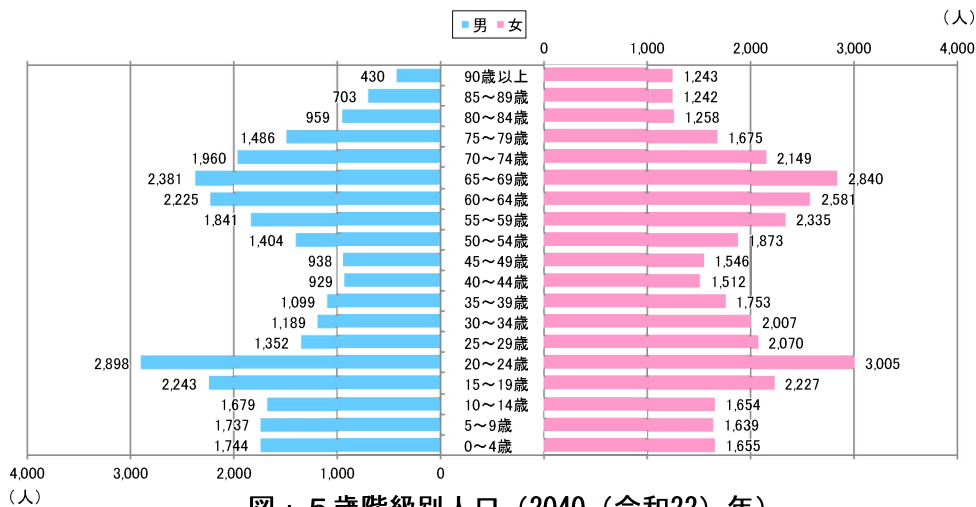
順位	平均年齢	県内市町村
1位	40.15	長久手市
2位	42.33	みよし市
3位	42.36	高浜市
4位	42.62	幸田町
5位	42.75	日進市

（資料：2020（令和2）年国勢調査）



図：5歳階級別人口（2020（令和2）年）

（資料：2020（令和2）年国勢調査）



図：5歳階級別人口（2040（令和22）年）

（資料：長久手市将来人口推計結果）

※長久手市将来人口推計では本市の実情に鑑みて、推計のために必要な「子ども女性比」と「純移動率」の仮定値を以下のとおり設定している
 子ども女性比：本市の実績（2015（平成27）年）をもとに、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口-2013（平成25）年3月推計-」の子ども女性比を補正した値
 純移動率：2015（平成27）年及び2010（平成22）年の国勢調査の実績をもとに算出した純移動数から、大規模開発（2010（平成22）年～2014（平成26）年）による人口増加分を除外した値（今後予定されている開発による人口増加分は別途推計に加算）

豊かな自然

豊かな自然環境に気軽にアクセスできるまち

本市西部は、土地区画整理事業等により都市基盤が整った良好な住宅地が整備され、東部は丘陵地や愛・地球博記念公園といった豊かな自然環境に触れられる地域となっており、便利な生活を送りながら、豊かな自然に気軽にアクセスできる都市構造となっています。こうした住宅地の身近に豊かな自然環境がある都市構造を活かし、自然環境と利便性の両立や、豊かな自然環境の中で子育てをしたい等、「自然に親しむ暮らしを志向する世帯に選ばれるまちづくり」が求められます。



図：長久手市の自然環境

(資料：ながくての自然 (2019 (令和元) 年))

市民主体

市民主体のまちづくりを目指すまち

本市の最上位計画である、ながくて未来図(第6次長久手市総合計画)は、市民主体のまちづくりが文化として定着するよう、多くの市民に役割を担ってもらう(=種を蒔く)ことに主眼を置き策定しており、基本目標の一つに「「やってみたい」でつながるまち」を掲げ、市民一人ひとりの興味に応じた「やってみたい」ことを応援することにより、さらに人と人がつながるまちを目指すこととしています。

また、本市においては、「長久手市みんなでつくるまち条例」を2018(平成30)年に施行し、市民主体のまちづくりを進めてきました。

こうした本市の取組を活かし、「市民のニーズを把握しつつ、市民と力を合わせてまちづくりを進めていくこと」が求められます。



(資料：長久手市 HP)

ゼロカ
ーボン

ゼロカーボンシティ宣言

本市では、2022（令和4）年1月4日にゼロカーボンシティ宣言を行い、第4次長久手市環境基本計画に基づき、2050（令和32）年カーボンニュートラル（温室効果ガス排出実質ゼロ）を目指すこととしています。こうしたカーボンニュートラルに関する取組を展開することは、みどり豊かで住みやすい長久手のまちを次世代に引き継いでいくために重要です。このため、「まちづくりの立場からもゼロカーボンシティの実現に向けた対応」が求められます。



長久手市ゼロカーボンシティ宣言

みどり豊かな長久手を子どもたちに引き継ぐために

近年、猛暑や豪雨など、地球温暖化が原因とみられる異常気象による災害が各地で発生しています。これは遠くの地方や国で起きている、自分には関係ない出来事なのでしょうか。

市内各所で夏の気温を観測した結果、名古屋市中心部よりも高温となることが分かりました。これは長久手市が、暑さの影響を受けやすい地域ということを示しています。私は、未来を担う子どもたちにこのことを知らせるため、長久手の気候についての動画を制作し、市内小中学校で放送しました。子どもたちはとても素直に受け止め、地球環境のために自分ができることを考えてくれました。

みどり豊かで住みやすいまちを子どもたちに引き継いでいくためには、市民、事業者、行政それぞれが地球温暖化を我がことと捉え、役割に応じた行動を実践していくことが重要です。

具体的には、市民の方は、節電や徒歩、自転車、公共交通機関での移動など、生活で使うエネルギーを減らすこと、資源の分別を徹底し、燃えるごみを減らすこと、みどりを増やすことに取り組んでいただきたいと思います。

事業者の方は、二酸化炭素を吸収した国産材の活用や節電、敷地内の緑化、環境に配慮したサービスの提供等、市民の環境に良い行動を牽引していただく。

市役所は、市民や事業者の方の手本となるよう、公用車のエコカー化等の施策を進めていっほか、環境に良い行動の重要性を発信したり、最新の情報を収集して皆さんと共有していきます。

本市はこの宣言を皮切りに、愛・地球博の理念を継承した環境配慮型まちづくりの推進や、市内事業者の環境配慮の取組の紹介、動画の配信などの意識啓発、省エネ行動を促す事業等を展開していく予定です。

みなさん一丸となってとりくみ、2050年ゼロカーボンを実現させましょう。

令和4年1月4日 長久手市長 

（資料：長久手市 HP）

災害の
安全性

津波や高潮の心配がなく洪水の浸水も限定的なまち

本市は海に面しない内陸部に位置し、津波や高潮による被害は想定されていません。また、市の一部で土砂災害や洪水による浸水が想定されていますが、限定的な地域となっています。このため、こうした安全性の高さを活かして本市を居住地として選択し続けてもらうため、「市民の安心・安全な暮らしに向けた対応を検討していくこと」が求められます。

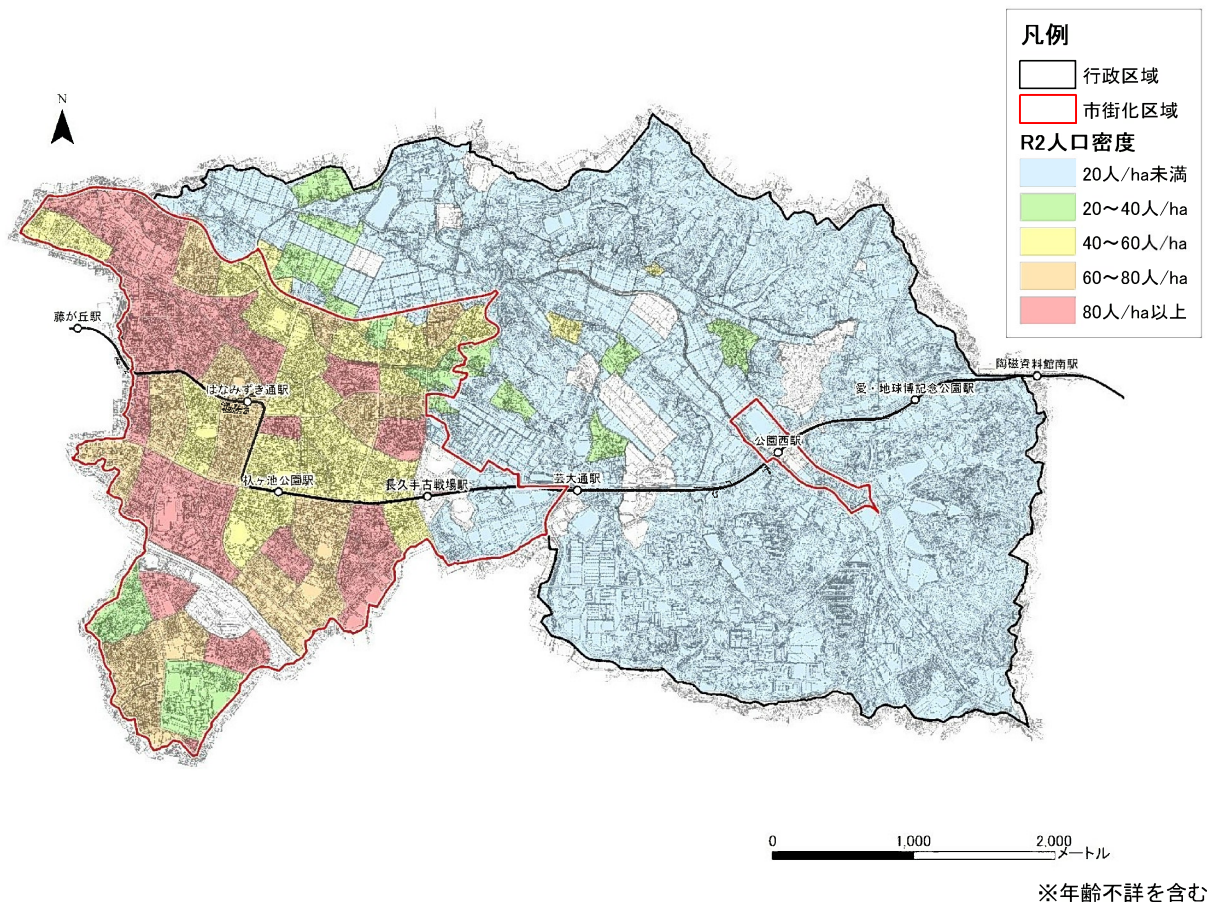
2-3 取り組むべき都市構造上の課題の整理

対応が求められる将来の情勢変化や今後も伸ばしていくべき“長久手らしさ（本市の特長）”を踏まえ、本市における都市構造上の課題を以下に整理します。

将来人口 高齢化 定住意向 若い世代

コンパクトで高い人口集積による生活利便施設の維持・充実

本市における市街化区域内の人口密度は、2020（令和2）年で 69.2 人/ha と高い水準であり、また、人口の約 86%が市街化区域内に居住しており、コンパクトな市街地が形成されています。将来的に人口減少に転じることが予測される中においても、これまで形成してきた人口集積の高いコンパクトな市街地を維持し、日常的な都市機能の身近な立地や、地域における交流機能の形成を促すなど、今後、高齢者が増加する中でも便利な生活を送ることができるよう生活利便施設の維持・充実が必要です。



図：人口密度（2020（令和2）年）

（資料：2020（令和2）年国勢調査小地域データよりコーホート要因法で推計）

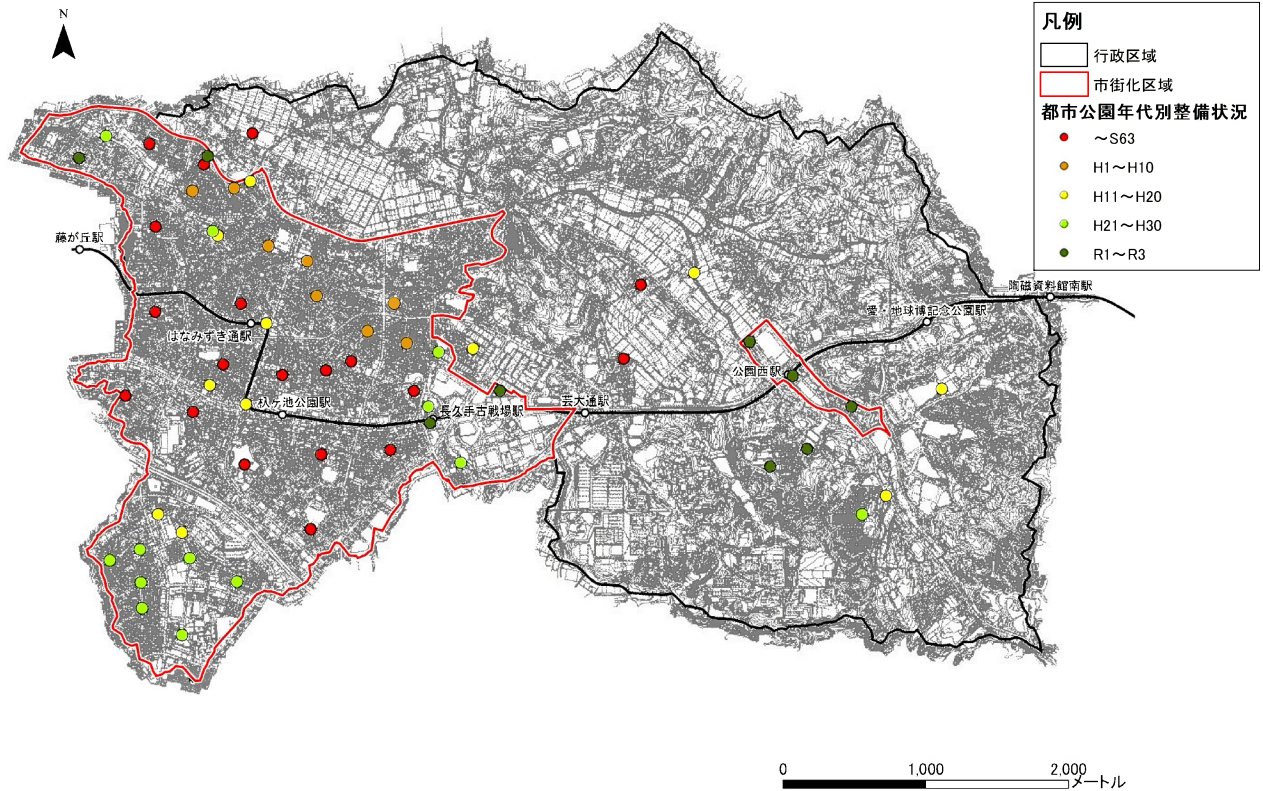
高齢化

老朽化

定住
意向

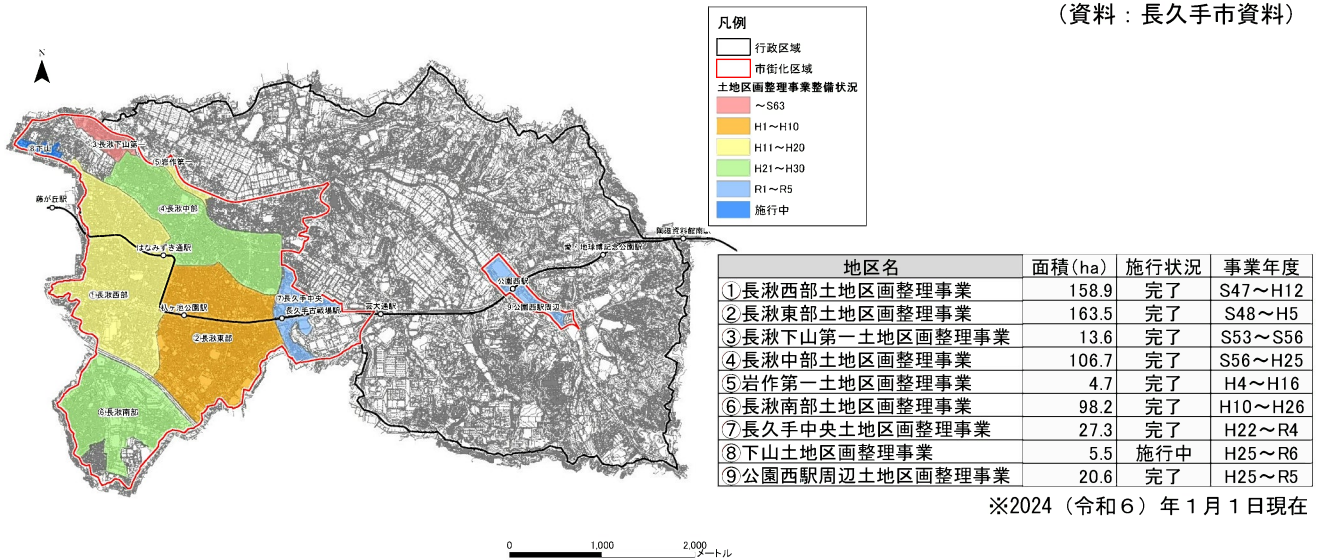
高齢化を踏まえた都市施設の維持・更新

本市の市街化区域は約8割が土地区画整理事業により整備されているため、道路、公園、下水道等の都市施設の老朽化が土地区画整理事業の地区ごとに進むとともに、各事業区域では同世代の人口が同時期に転入したことにより、高齢者も同時期に増加していくことが考えられます。こうした地域においては、都市施設に求められる機能が変わっていくことも考えられるため、高齢化等の人口動向を踏まえた都市施設の維持・更新が必要です。



図：都市公園年代別整備状況

※2022（令和4）年4月1日現在
（資料：長久手市資料）



※2024（令和6）年1月1日現在

図：土地区画整理事業の状況

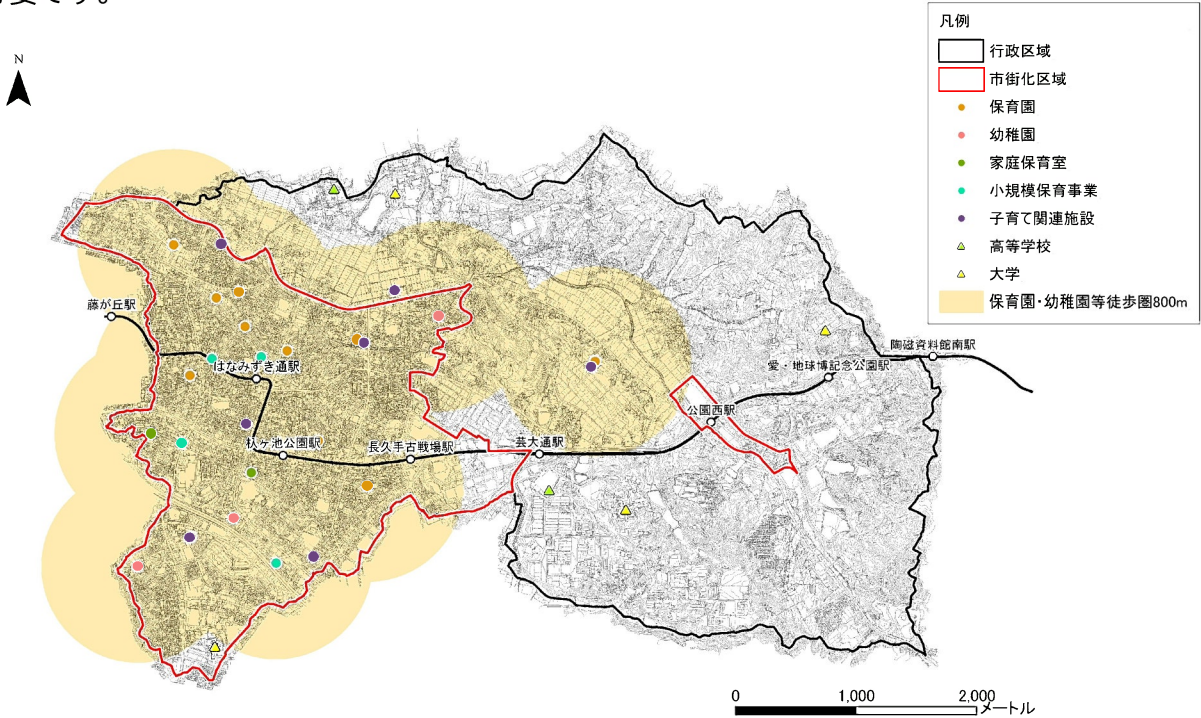
（資料：2021（令和3）年度ながくての統計、2016（平成28）年度都市計画基礎調査）

若い世代に向けた魅力的な都市環境や子育て環境の確保

本市は日本一平均年齢が若く（2020（令和2）年国勢調査）、子育て世代の人口が多い都市であり、子育て支援施設の適切な配置や豊かな自然環境を活かした環境学習の場の提供等、子育て環境の維持・充実を図っていくことが必要です。また、こうした充実した子育て環境により成長する次世代が本市に愛着を持ち、進学等により一時的に市外で暮らしたとしても、将来も本市に住み続けたいと思ってもらえるよう魅力的な住環境を確保していくことが必要です。

また、本市の特長である、豊かな自然に気軽にアクセスできるという都市構造を維持することで、今後も、自然に親しむ暮らしを志向する世帯等に選ばれるまちづくりが必要です。

さらに、本市には4つの大学（愛知県立芸術大学、愛知医科大学、愛知淑徳大学、愛知県立大学）及び2つの高校（長久手高等学校、栄徳高等学校）が立地しており、豊かな学生生活を送ることができるまちづくりが必要です。また、学生等と一緒にまちづくりについて考え、実践しながら都市空間の魅力向上を図っていくなど、教育機関や学生等と協働してまちづくりを進めることも必要です。



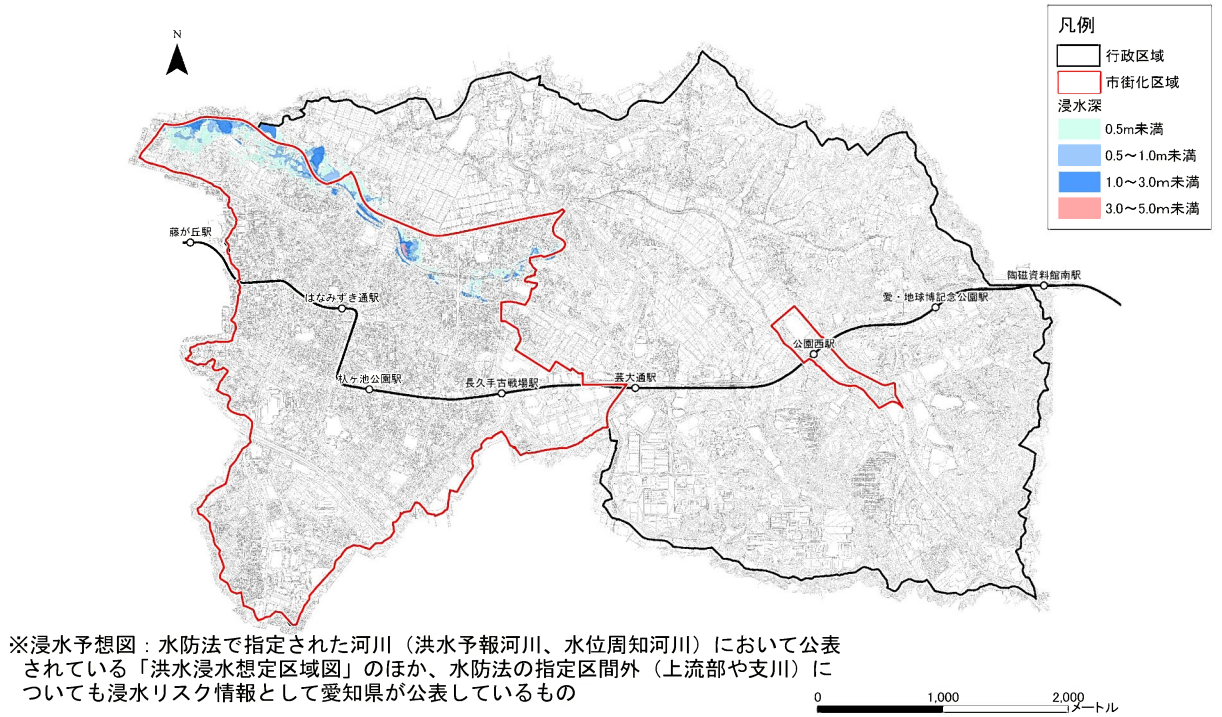
図：子育て支援施設（保育園・幼稚園）及び大学・高校の分布状況
 ※2022（令和4）年4月1日現在
 （資料：長久手市 HP）



写真：自然環境学習、田植え体験
 （資料：長久手市 HP）

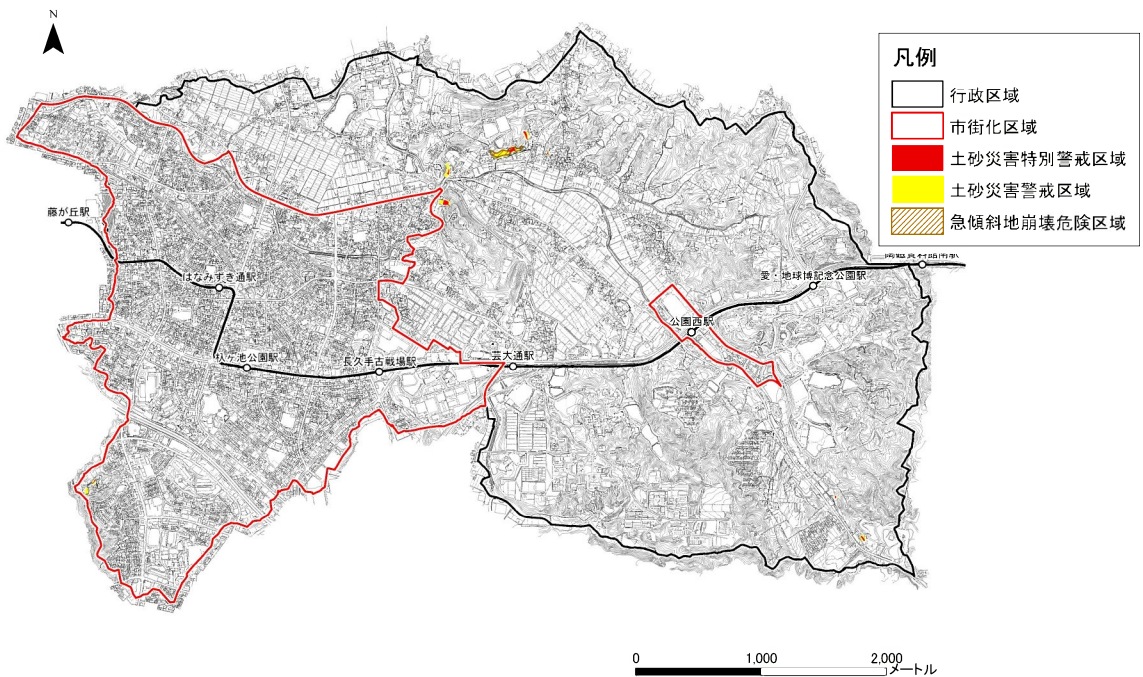
激甚化・頻発化する災害を踏まえた防災・減災対策

本市においては、香流川の想定し得る最大規模の降雨により浸水が予想される区域が市街化区域の一部にあります。また、土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域についても指定されている地区があります。こうした区域は限定的な範囲であり、ソフト対策も含めた個別の対応が必要です。また、自然環境が有する貯水機能を引き続き保つために、本市東部の丘陵地や農地等の豊かな自然環境を保全することが必要です。



図：庄内川水系香流川流域浸水予想図（想定最大規模）（再掲）

（資料：愛知県資料）



図：土砂災害警戒区域等の分布状況

（資料：愛知県オープンデータ（マップあいち公開データ））